

第6回大阪府地方独立行政法人評価委員会大学部会 議事要旨

- 1 日時 平成19年8月31日(金) 午前10時～10時20分
- 2 場所 大阪キャッスルホテル6階「鳳凰」
- 3 出席委員 山谷部会長、奥林委員、服部委員、辻本委員(オブザーバー)、
松澤委員(オブザーバー) (永田委員、宮嶋委員は欠席)

4 議題

- (1) 平成18事業年度の業務実績に関する評価について
- (2) その他

5 議事概要

開会

<議事内容等の確認>

これまでの審議及び法人への意見聴取を踏まえた評価案作成の経過、本日の議事内容について、部会長から確認があった。

議事

(1) 平成18事業年度の業務実績に関する評価について

<評価(案)についての資料説明>

資料1「評価結果(たたき台)に対する意見と修正点について」、資料2「平成18事業年度の業務実績に関する評価結果(案)」及び資料3「平成18事業年度の業務実績に関する評価結果<参考資料>小項目評価(案)」により、評価(たたき台)に対する委員からの意見とそれらを踏まえた具体的な修正内容について、事務局から説明があった。

また、資料4「平成18事業年度の業務実績に関する評価結果の概要(案)」について、評価結果を報道提供する際の資料として、作成した旨の説明があった。

<評価結果(案)の審議と決定>

委員から特に意見がなかったため、部会としての評価結果(案)の決定に入った。「平成18事業年度の業務実績に関する評価結果(案)」は資料2のとおり、また「平成18事業年度の業務実績に関する評価結果<参考資料>小項目評価(案)」は資料3のとおり決定することについて、各委員に諮り、異議なしとして決定された。この後に開催される第14回評価委員会において、これらを部会の案として報告することとなった。

(2) その他

特に議題はなかった。

閉会

閉会に当たって、部会長から次のコメントがあった。

- ・ 独立行政法人の評価というものは、大阪府と法人との一種の信頼関係に立って毎年実施しているものであるが、内容がかなり専門的で、かつ難しすぎるのではないかと感じている。これを一般の府民の方々がご覧になって、どこまで正確に把握できるか、かなり難しいのではないかという気がしている。

毎年こうした評価を実施し、さらに将来、研究と教育に関する評価や中期目標期間終了後の評価も加わってくると、大変な量の作業が発生するのではないかと危惧している。年度評価に関してはもう少し作業量を削減できる、簡素化するという方向で何か考えられないかと思っている。国の独立行政法人評価でも、実際はかなりの作業が発生しており、評価システムを簡素化できないか模索されている。大阪府においても、来年度の評価に向け、簡素化する方向で考えられても良いのではないかと思う。

委員から次の意見があった。

- ・ マネジメントシステムの設計や業務の効率化といった間接部門の業務目標については、1年目あるいは2年目で一応完了したものがあると思う。そういうものは、落とさないといけない。完全に消してしまうと分からなくなるので、何年度完了といった形で落としていくのが良いと思う。例えば、全国の大学の授業料の調査については、一応完了して、当面、今の授業料、入学料は変えないことが妥当という結論を出しておられるので、その調査はもう良いと思う。そういう間接業務に担当者が張りついて、固定化してしまうということにならないようにしていただきたい。各年度の目標項目の設定や評価に当たって、大阪府も配慮することが必要ではないかと思う。最終年度は、間接業務の目標について、済んでいるものは「済」で、項目が少なくなっているのが理想的だと思う。

以上